歎願書

発送係従業員一同ノ生活者ヲ新ヘテ！
各取締役社長ニ歎願ス!!

人間がその生活者に生命の尊重を希みは第人共通の願求であります。然るに販賣部発送係従業員諸君の生活はその正反対常に不安定！危険なる作業々は絶えず心身を磨かし、命懸けなく光なく白夜不安と焦燥とに疲れ苛まれつゝあるのであります。この様なドン底生活を社長は何と考へられるでしょうか？ 然らばその劣悪なる労働条件、不衛生なる作業とは如何なることかと伸しますればその労働時間なるや実に十有一時間余（分一部）の永き夜間と未明とを費やすのであります。作業に於ては彼の汽車発車時刻はもとより乗務行等自動車の超スピードは正に命がけの仕事であり、社内に於ては就業時間の影響から切なる体位がありまして斯る永い労働時間が、一昨年は自動車で一人生命をとられ、今年も八重樫君を危く死ぬところであった！

労働に対する報酬が実に乏しく家族の扶養どころか、己れ一人の生活を維持するにさへ事欠き、見る大影河と称される地獄に比しては薄給なのであります。

発送係従業員を永遠に独身生涯に繋がせいふならばいざ知らず、これらは到底人間としての生活を維持することは不可能なのであります。

これまで数度理事者に懇願を重ねたのであります。が、弱人ど一顧をだに与へられず、絶望の果て日を免、今や全く困窮悲憤に堪へもない。

社長に於ては如何ともしがたき状態にあるかを知らず、これらは到底人間として斯る文明の世界、北海道にありながら劣く監獄部屋のかを生活を打開せんものと絶望の果て日を免、今や全く困窮悲憤に堪へられず。

の様に当らん……」云々の言葉に従ひ、工場合動場従業員諸君の苦を理解せ、文様の下に左記各項を歎願致します。